

1. 実践研究テーマ

自主的・意欲的に取り組む生徒を育てるための「めあて」と「振り返り」の工夫

- ①「何をどのように学ぶのか」を具体的に提示する。②毎時間や協働学習における「振り返り」による効果の検証・改善

2. 取組の内容(協力校等との連携等を含む)

○プロジェクトチーム編成と研修会打ち合わせ→★研修後の反省から次回の計画をたてる。

- ・4/23第1回協議会(担当者:Zoom会議によりプロジェクトの意義と流れを理解)
→協議会の内容を全職員に共有→協力校(小学校に連絡)
- ・5/29小中統一の目標設定(県担当者と校区内小中学校の担当者参加)
→各学校の実態と課題を共有し、本年度の研修テーマ「自主的・意欲的に取り組む生徒を育てるための『めあて』と『振り返り』の工夫」が決定した。
- ・8/6研修会の事前打ち合わせ(本校担当者と県担当との打ち合わせ)
→夏休み中の研修の持ち方について協議する。→小学校への連絡
- ・12月の研修会の事前打ち合わせ(本校担当者と県担当との打ち合わせ)
→研究授業の内容と授業研究会の流れを議論する→小学校への連絡



(8/22研修会のようす)

- 最終まとめ**
- ・1/22本年度のまとめと次年度の取組テーマを議論する(県担当者と小中学校の担当者参加)
→12/16の授業研究会などを加味して成果と課題・次年度の取組について議論する

○学校力向上・各教科(ICT活用・授業力向上)に関する主な研修会

- ・6/14学力向上研修(Zoom研修・担当者参加)→研修内容を校内研修に活用
★本校の実態から各教科毎の課題や取組目標と具体的な工夫について議論し、共有した。
★掲示物のUD化・授業2分前着席・学習準備の徹底・ICT機器の有効活用など実施。
- ・8/19小中合同研修(県担当者・鳴教大・小学校教員・本校職員参加)
→各校の1学期の成果と課題や研修テーマに即した取組内容について共有した
- ・8/22三好教育研究所発表(三好地区幼小中職員参加)★生徒指導
- ・9/11音楽部会研究授業(三好地区音楽科教員参加)★ICT活用
- ・11/14国語部会研究授業(本校職員・三好地区国語科教員参加)★ICT活用
- ・11/15ミドルリーダー研究授業(社会)★ICT活用・「めあて」「振り返り」の工夫



(12/16研究授業のようす)

- 成果発表**
- ・12/16小中合同研究授業(理科で実施)(県担当・鳴教大・小学校教員・本校職員参加)
→①研究授業:ICTを活用した授業と「めあて」と「振り返り」に重点を置いた授業を展開
②授業研究会:授業・研究テーマに関する話し合い

○報告

- ・1/29 実施報告書地教委へ提出(担当者)
- ・2/28 取組報告(Zoom会議・担当者)
- ・3/6 R6年度学力向上プランを地教委へ提出(担当者)



(12/16授業研究会のようす)

3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- ・校区内小学校教員との交流により、生徒の生育歴を知り、生徒の変容を系統的に把握して保護者対応や個別指導に活用しようとしている。
- ・小学校の「めあて」「振り返り」「指導法」を知ることで、よりわかりやすい発問や個に応じた指導等「何をどう学ぶのか」を意識して授業改善を図った。
- ・地域の人材を活用したり、キャリア教育と連携したりするなど、教科横断的な視点を加味した柔軟な授業展開が可能となった。
- ・振り返りシート等のワークシートや指導法を共有するなど、相互に学び合い指導力の向上に努めた。

○ 児童生徒の変容

- ・学力差が大きい実態を考慮し、「めあて」に準じる課題を出して、前時の復習や課題から「めあて」を具体的に理解することができるようになった。
- ・ICTを活用した「振り返り」の蓄積により、各々が「何を学んで」「どうわかったのか」を具体的に把握でき、さらに「何がわかってないのか」を認知しやすくなった。
- ・学習成果の蓄積が効率化されて、家庭学習や復習に活用する生徒が増えた。
- ・学びのポートフォリオ化が促進されたことで各々が自分に合った「個別最適な学習」を選択できる環境を整えられた。
- ・継続的な学習や家庭学習の充実が今後の課題である。

4. 2年次に向けての取組予定

- ・研究組織のメンバーと研究会など開催の時期が的確であった。→次年度も検討する。
- ・質の良い「めあて」「振り返り」について研究を継続して、教師の資質向上を図る。
- ・小中共通の「タブレットドリル」を活用し、学習の系統性・ポートフォリオ化を図る。
- ・生徒相互の学び合い(まきこみ効果)で学習集団の質を向上。教師の発問(投げかけ)の工夫。